

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 図書館ネットワーク推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111 (内 291)

E-mail：c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,450 千円 (前年度予算額：5,379 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,379	0	0	0	0	0	0	0	5,379
要求額	5,450	0	0	0	0	0	0	0	5,450
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内市町村図書館等に対して、宅配便により週1回往復で、県図書館の所蔵資料や県内図書館、東海北陸地区図書館の資料の配送を行っている。県内全域へ資料を迅速に届けるため、引き続き配送を実施する。

研修についてはより多くの職員が参加できるように申込方法や日程、会場選定に工夫が必要である。図書館職員として必須の知識や技能を目的別・階層別に取得できる場として研修内容の一層の充実を図る。

(2) 事業内容

全県民への格差のない図書館サービスを提供するため、県図書館が市町図書館等の活動を支援し、その振興を図る。

1. 図書館訪問事業

- ・公民館図書室への訪問及び市町図書館との地区別意見交換会を通して、専門的な助言、資料等の援助、情報交換を行う。

2. 資料支援事業

- ・県内市町図書館等 週1回往復 貸出・返却
- ・調べ学習用図書・朝読書用図書セットの貸出

・小中高特支・大学図書館及び県外図書館等との貸出返却

3. 図書館職員研修会開催事業

県内市町村図書館職員等を対象に専門研修を各1回開催

- ・初任者専門研修会
- ・児童サービス実践研修講座
- ・岐阜大学との共催研修会

4. 司書等研修会開催事業

県内市町村図書館職員等を対象に、社会教育推進や職員の資質向上のために行う基本研修を一定期間開催

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	139	講師謝金等
旅費	172	講師旅費
需用費	311	消耗品、燃料、会議費等
役務費	4,828	相互貸借定期便等
合計	5,450	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

すべての県民が身近な図書館で多様なサービスを受けられるよう、訪問や研修事業等を実施し市町村図書館等のサービス向上に貢献することは、県の中核図書館として第一に担うべき役割である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内すべての県民が、等しく質の高い図書館サービスを受けられる環境を整えるため、訪問による専門的助言、資料支援、研修等の事業を通して、県内市町図書館等を支援し、県全体としての図書館活動の振興を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
		(H29)	(H30)			
相互貸借定期便資料流通冊数（冊数）	0 (H6)	21,105 (H29)	22,212 (H30)	21,389 (R元)	25,000 (R5)	85.6%
図書館職員研修会の満足度指数	— (H6)	97.0% (H29)	97.4% (H30)	97.6% (R元)	100% (R5)	97.6%
図書館職員研修会参加者（H29～累計）	47 (H6)	1,388 (H29)	2,053 (H30)	2,819 (R元)	5,500 (R5)	51.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（1）図書館訪問事業

- ・地区別意見交換会（6地区）
- ・公民館図書室8室との意見交換会（川辺町にて11月開催）

（2）図書館職員研修会開催事業

- ・初任者専門研修及び司書等研修会 全4回開催（参加者290名）
- ・児童サービス実践研修講座（岐阜県図書館にて11頃開催予定）
- ・岐阜大学との共催研修会（岐阜大学にて10月開催予定）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

地区別意見交換会において、図書館運営の長期的、大局的な課題について交流することができた。

図書館職員研修会においては、地域の課題解決支援など今日的課題に対応する講座を設定し、初任者及び中堅職員の新たな知識の習得に寄与した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	すべての県民が身近な図書館で多様なサービスを受けられるよう、訪問や研修事業等で市町図書館等のサービス向上に貢献することは、県の中核図書館として第一に担うべき役割である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	図書館間の連携が進むことにより、資料の配送を利用した相互貸借定期便の利用は定着化し、事業は有効活用されている。運営相談や研修で得た成果は各館での取り組みに活用されている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	訪問・資料援助・研修の支援を通し、県内市町図書館の資質向上、バックアップに寄与している。また、研修参加機会の格差を解消するために、より多くの職員が参加できるよう工夫した。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内市町図書館等との週1回往復の資料配送を維持するために、配送費の値上がりに対応する必要がある。研修会や意見交換会を通して県内すべての図書館への支援と連携をより深める必要がある。研修については、対象の設定や参加対象館の主管課の協力を得る工夫が必要である。図書館職員として必須の知識や技能を目的・階層別に取得できる場として、今日的課題に対応した質の高い講座を設定し、研修内容の一層の充実を図る。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 資料配送手段の充実、県内各種図書館等職員向け研修の充実等により、県内全体の図書館サービスのレベルアップを図る。また、市町図書館や公民館図書室への支援と情報交流のための訪問や意見交換会を継続して実施する。	
---	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	